

※記入上の注意事項は裏面(2頁)に記載。よく確認すること

1:基本事項

希望研究テーマ コード:

内容:

テーマに対する志望、希望動機、意気込みなど:

自己アピール(得意分野、技能、経験、実績など)

選択コース:

資格等:

エフォート:

%

希望がぶつかったときの第2希望

2:補助事項☐進路はすでに決めている 進路希望/業種・職種☐進路目標を達成するための活動を始めている 具体例☐講義を時々遅刻欠席する 遅刻欠席の理由☐夜更かし、寝過ごしが多い☐午前中から研究室に来ることはできる☐アルバイトをしている 週 時間程度☐アルバイトが学業に影響しうる☐やっつけいいことと悪いことの区別はつくつもり☐研究室の対外活動に協力できる☐人のアドバイスは考えた上で受け入れられる☐提案テーマの完遂の努力を惜しまない☐4年生は研究学業と就職を最優先し、サークル活動は状況によってはあきらめられる☐オタクっぽい環境でも気にならない☐研究室に共存するのロボ研と仲良くやっていける☐教室では前1/3に座っていることが多かった☐同、中1/3☐同、もっぱら後ろのほう**3:学業状況申告** (9月に配布された成績表およびシラバスの課程表を確認のこと)☐3年前期までの必修科目で単位を落としたものがある 科目☐現在、キリ教、実験2, JS以外で進級に影響のある科目がある 科目☐教養教育、語学で卒業単位がまだ足りない 科目群☐来年度で卒業できるはず 来年度必要となる必修以外の科目数見込

科目

☐工場実習合格 ☐メカトロI合格 ☐製図合格 ☐メカトロII履修中 ☐ロボット基礎履修中

本書類への記入上の注意点

- 本資料は足きり(必要な場合)、プレゼンによる配属決定の補助資料とする。
- 卒業まで保管する。一部は配属決定時には宣誓書として見なすので、勢いで偽証しないように気をつけること。とくに補助事項。
- 希望テーマについて、プレゼン時の変更は認めるが、その場合、改めてその部分の再提出を推奨(プレゼンの参考とするため)。研究内容の詳細を述べる必要はない(ネタバレになるし)。なお、すでにメール等で知らせてあるものと同一でも異なることを書いてもかまわない。
- 自己アピールは「工業高校で〇〇の実習をした」「〇〇(技術系スポーツ系問わず)の大会に出た・結果」「1, 2年の数学物理英語は楽勝だった」「分解した機械は30を越える」「趣味でこういう技術を持っている」「アルバイトで実は店長代理」「新聞配達で毎日4時起き」「ツイッターで返しではないフォロワーが300人いる」など多少でも関係しそうなものでアピール。もちろん、関連度が高いものを優先して書くこと。
- 第2希望は必須ではないが、衝突回避には役立つ。
- エフォートの定義：
生活に必要な時間や講義、就活の時間など不可欠なものを除いた、月～金の平日の時間において、卒業研究や関連事項に費やすつもりの方の時間の割合。
(たまに意気込みと勘違いして100%とか120%と書く人がいるが間違いである)
- 補助事項は、該当するものにチェックを入れ、下線部は記載する。
主に研究開発と一緒にやっていく上で私にとって心配がないかどうか。
※学費のためなどにアルバイトをすること自体はかまわないので原則として可否には影響しない。しかし過度のバイトは就職活動にも影響するし、遊び金や飲み代のためのバイトは謹んでもらいたい。不可欠なバイトについては研究時間制約の相談にも応じる。
ちなみに、大半は過去に問題になった事例をもとにしている。
- 学業申告状況で聞きたいことは「無事に4年生になれるか」「無事に卒業できるか」である。
(そのため、ここの点数や平均点そのものについては原則として問わない)
これだけ希望者がいるところで、配属決定になっても進学卒業できないのでは、希望が叶わなかった人に対する失礼である。もちろん、何が起ころかわからないので、不幸にして進級できなかったという場合にペナルティを科すものではない。
個別の科目は研究テーマ実施においての整合性の確認であって、全部必須ではない。
(例:ロボットをつくるという場合、工作や製図が必須、ロボット基礎もたいていは必要)
- 本調査票に関する質問は随時受け付ける。
- 意気込みを示すために本用紙ではとても足りない、という場合に独自様式の書類、たとえばプレゼンでは呈示しきれない研究背景の説明や研究計画書などを用意してもかまわないが(面接時もしくはプレゼン発表まで)、A4とし、程度は考えること。逆効果もあり得ることに留意。
- 面接の実施について
本書類をもとに、現時点での希望の確かさと接したときの雰囲気を中心に判断する。
(特定のテーマに明確な関心があるのか、熊谷研ならいいのか、なんとなく熊谷研なのか)
まずは足きりが必要になったときのための情報であるが、ここで得た情報は、これ以外で得た普段の感触などもあわせて、JSプレゼン発表合格者の中から配属可否を決めるときの参考情報とする。

以上